

**キャリアタス就活**  
[career+]

# 2023卒 理系学生の序盤の就職活動（専攻分野別）

2022年4月

株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

# 調査概要

## <調査概要>

2023年卒の理系学生の就職戦線序盤の活動状況や志向に関する調査データの中から、主なものを抜粋し、4つの専攻分野（機械・電気系／情報系／土建系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較などを通して、その特徴を分析した。

- 調査対象 : 2023年3月に卒業予定の理系大学生・大学院生（修士課程）  
 サンプルング : キャリタス就活2023 学生モニター  
 調査方法 : インターネット調査法

	第2回調査	第3回調査	第5回調査	第6回調査	インターンシップ特別調査
調査時期	2021年11月	2022年1月	2022年3月	2022年4月	2022年3月
回答者数	1,124人	1,104人	1,302人	1,265人	718人
理系全体	422人	399人	482人	457人	282人
機械・電気系	108人	102人	126人	119人	68人
情報系	55人	55人	76人	72人	40人
土建系	42人	38人	44人	44人	26人
化学・農学・薬学系	103人	97人	117人	113人	70人

※上記以外の専攻系統も「理系全体」に含まれる。そのため、4専攻系統の人数の合計は「理系全体」と一致しない。

## <目次>

1. インターンシップ等*参加状況①	P3	8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	P10
2. インターンシップ等参加状況②	P4	9. リクルーターとの接触	P11
3. インターンシップ情報を探した時期	P5	10. 推薦の利用予定	P12
4. インターンシップ先を探す際に重視したこと	P6	11. 就職活動量①（経験率）	P13
5. 序盤の志望業界	P7	12. 就職活動量②（平均社数）	P14
6. 第1志望業界になったきっかけ	P8	13. 就職活動状況の分布	P15
7. 就職活動に関する情報の入手先	P9	14. 「面白そう」と感じる仕事	P16

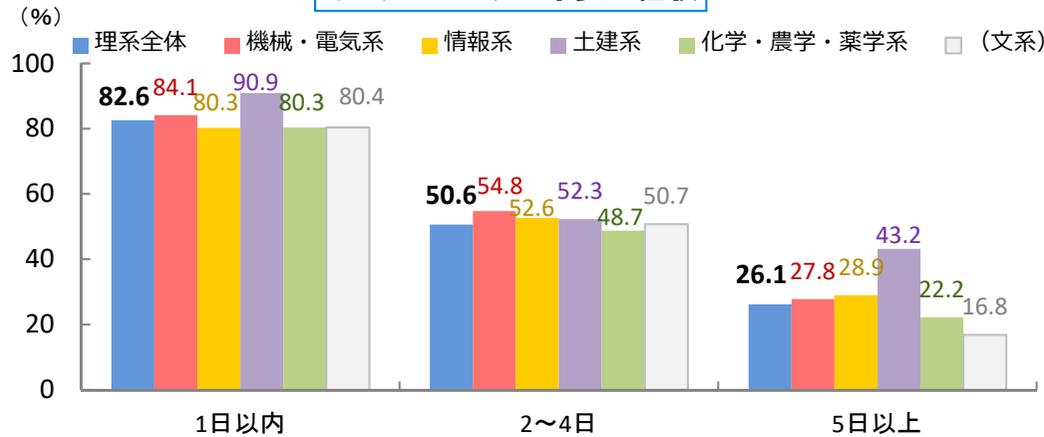
\*1日以内のプログラムも含めて調査

## 1. インターンシップ等参加状況①

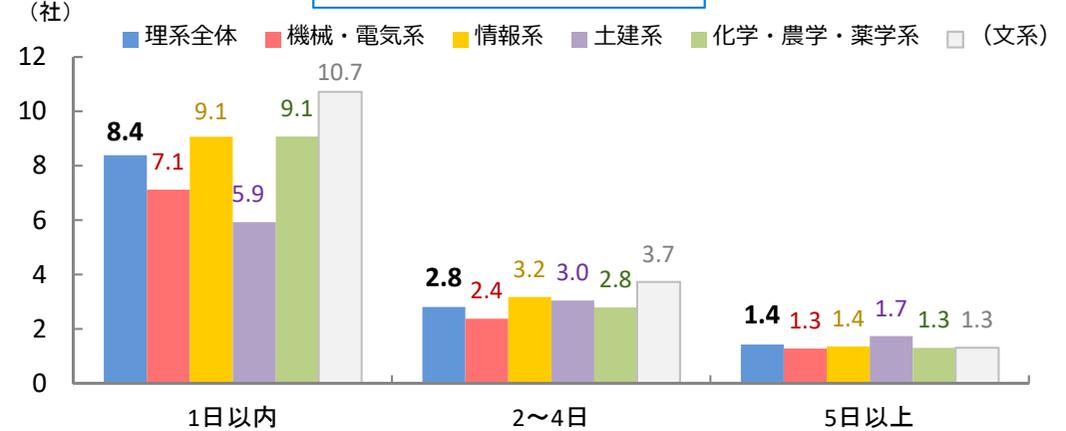
\*1日以内のプログラムも含めて調査（以下同）

- 1日以内のプログラムは、いずれの属性も8割以上が参加経験を持つ。土建系は5日以上への参加率が他の専攻より高い(43.2%)。
- 参加社数は1日以内のプログラムにおいて文理差が大きく、文系(10.7社)より2社以上少ない(8.4社)。
- 参加時期の内訳は、いずれの属性も8月が最多。特に情報系で高い(29.4%)。情報系は早い時期の参加割合が高いのが特徴的。

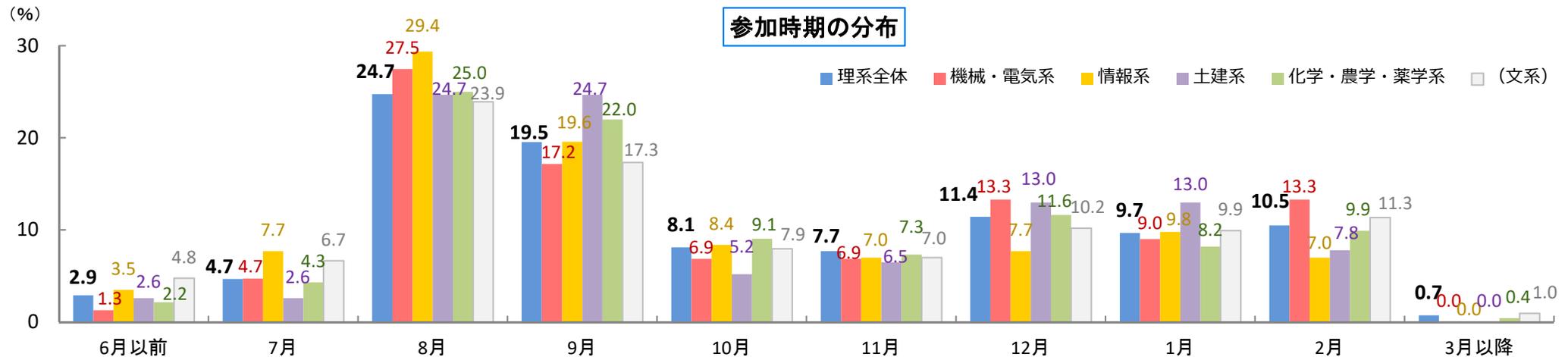
### インターンシップ等参加経験



### インターンシップ等参加社数



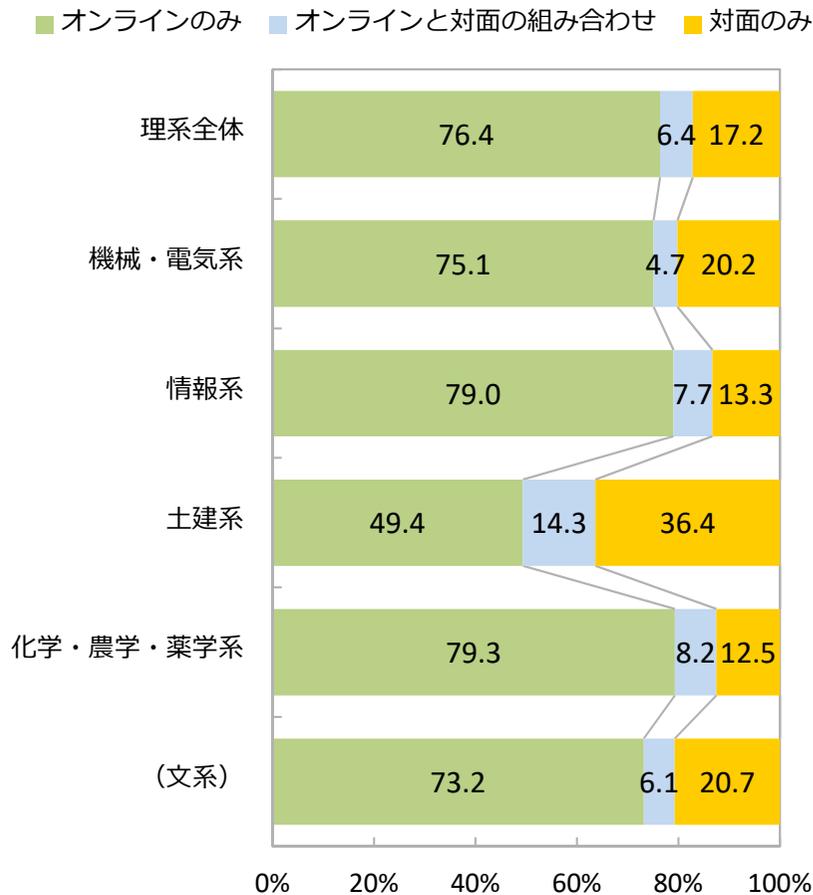
### 参加時期の分布



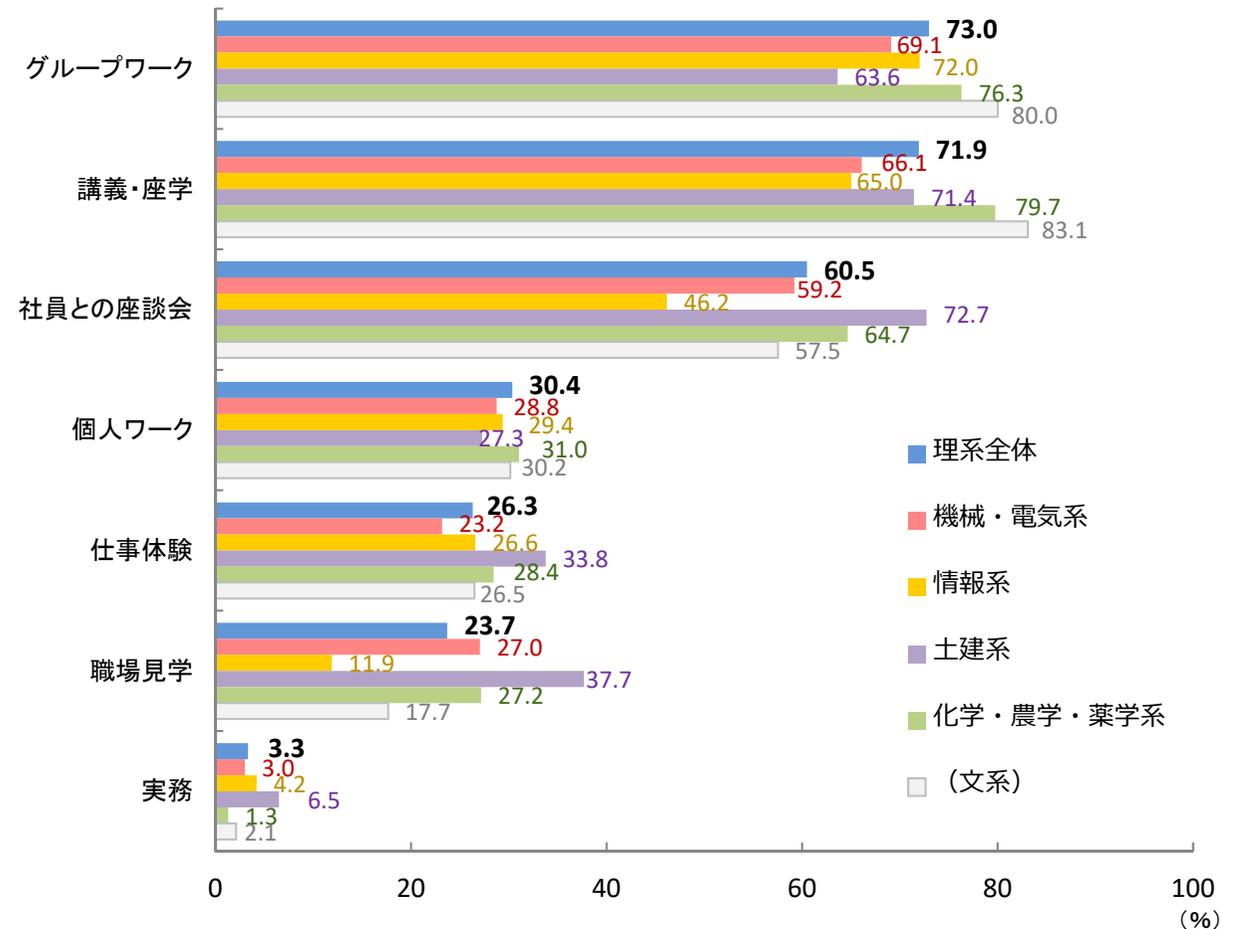
## 2. インターンシップ等参加状況②

- 文理とも「オンラインのみ」で実施されたプログラムへの参加が7割強を占める(理系76.4%、文系73.2%)。
- 参加したプログラムは、理系全体では「グループワーク」「講義・座学」「社員との座談会」の順に多い。
- 土建系は対面プログラムへの参加割合が高く、「職場見学」や「仕事体験」が他よりも多い(37.7%、33.8%)。

インターンシップの形式



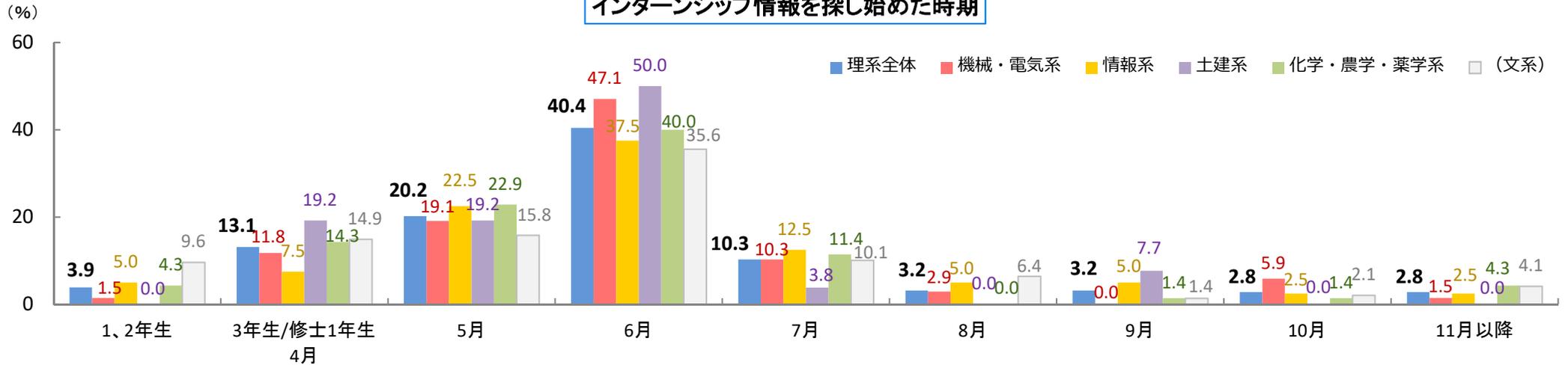
プログラム内容



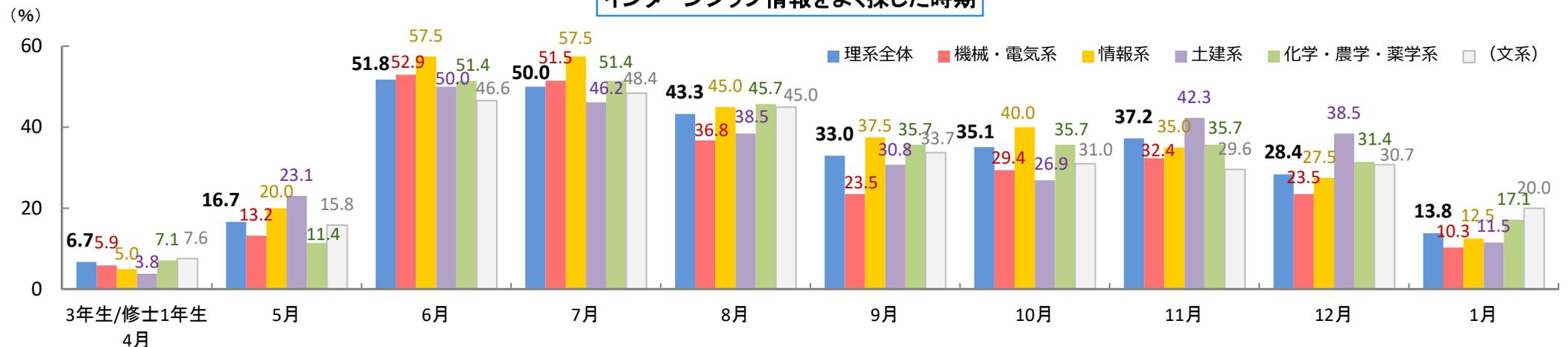
### 3. インターンシップ情報を探した時期

- 探し始めた時期は、いずれの属性も3年生/修士1年生の6月が最多。化学・農学・薬学系は5月までの合計が4割を超え、早くから開始。
- よく探した時期は、理系全体で6月・7月が5割に達し、夏季プログラムの情報収集が盛んだったことがわかる。
- 9月以降は3割台が続き、秋や冬のプログラムを探す学生も少なくない。但し機械・電気系は、秋以降は他の専攻分野より一貫して低い。

インターンシップ情報を探し始めた時期

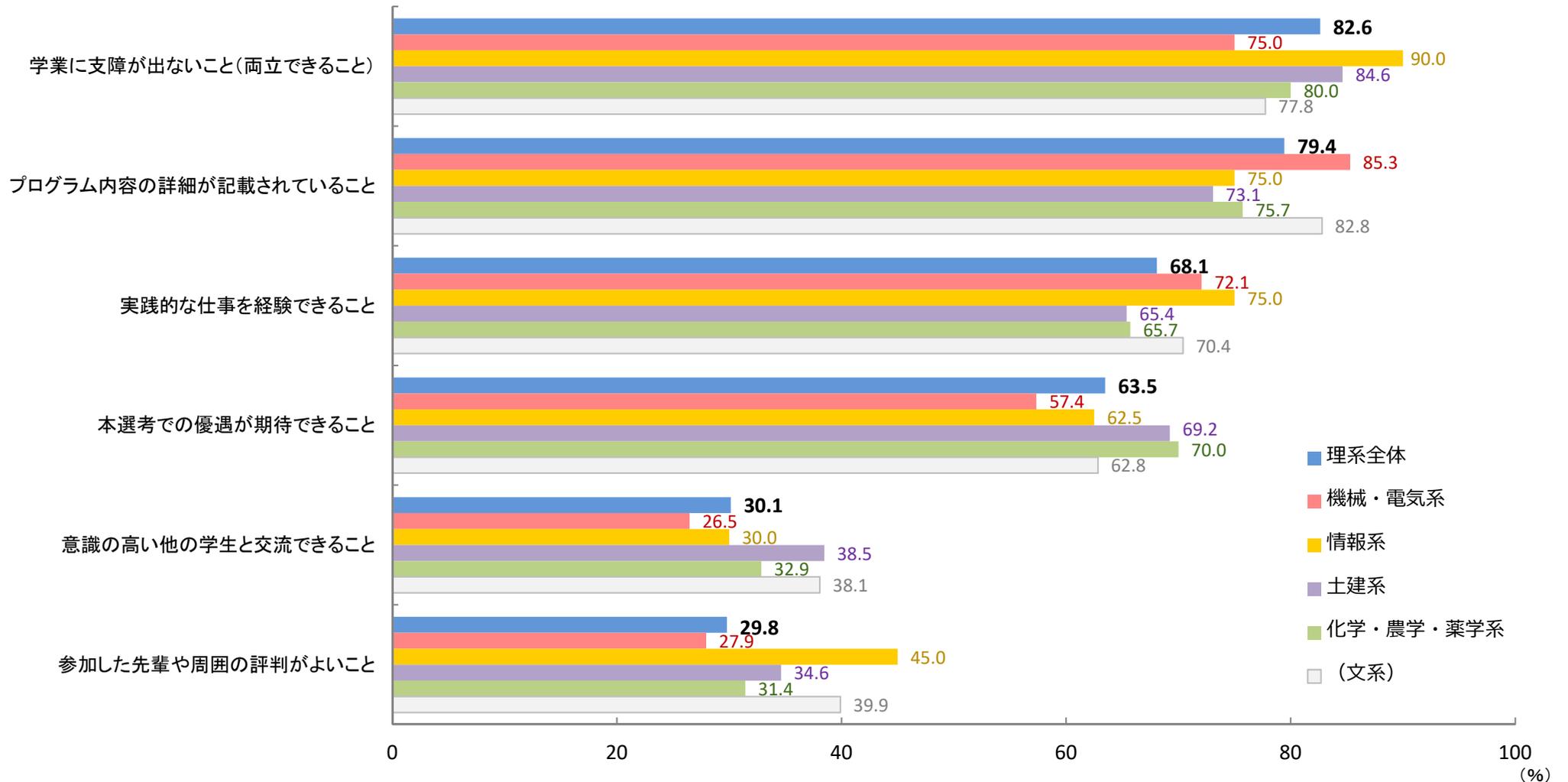


インターンシップ情報をよく探した時期



## 4. インターンシップ先を探す際に重視したこと

- 応募時に重視した点は、理系全体では「学業に支障が出ないこと」が最多(82.6%)。情報系は9割に達し、特に高い(90.0%)。
- 機械・電気系は「プログラムの詳細が記載されていること」が最多で(85.3%)、内容面を重視。
- 情報系は「参加した先輩や周囲の評判がよいこと」の割合が他の専攻学生より高く、他者の意見もよく参考にしている様子がうかがえる。



## 5. 序盤の志望業界(11月時点)

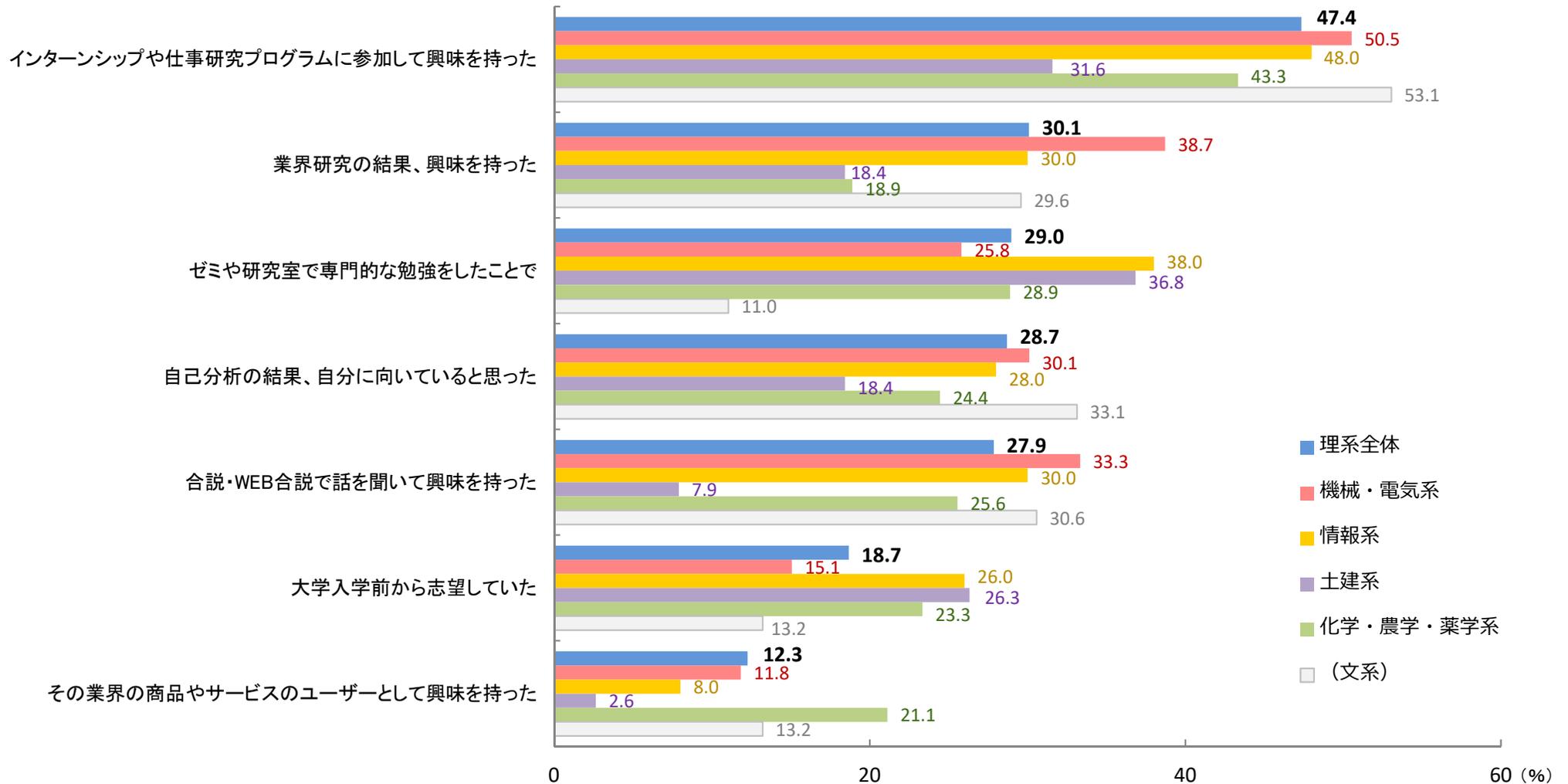
- 機械・電気系学生の志望業界は、「電子・電機」が1位(43.0%)。次いで「自動車・輸送用機器」(38.7%)。
- 化学・農学・薬学系学生は、1位「素材・化学」(58.9%)、2位「水産・食品」(48.9%)の順。
- 情報系学生はIT業界に、土建系は「建設・住宅・不動産」にポイントが集中し、専攻分野との関連性が強く表れている。

(%)

	理 系					文 系	
	理 系	機械・電気系	情報系	土建系	化学・農学・薬学系	文 系	
1	素材・化学 29.5	電子・電機 43.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 74.0	建設・住宅・不動産 89.5	素材・化学 58.9	銀行 22.5	
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.7	自動車・輸送用機器 38.7	情報・インターネットサービス 66.0	エネルギー 21.1	水産・食品 48.9	情報・インターネットサービス 19.9	
3	情報・インターネットサービス 22.0	精密機器・医療用機器 32.3	通信関連 22.0	官公庁・団体 21.1	医薬品・医療関連・化粧品 43.3	マスコミ 19.1	
4	医薬品・医療関連・化粧品 21.4	機械・プラントエンジニアリング 26.9	調査・コンサルタント 16.0	運輸・倉庫 21.1	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 14.4	調査・コンサルタント 17.9	
5	水産・食品 21.2	素材・化学 19.4	電子・電機 14.0	調査・コンサルタント 13.2	農業・林業・鉱業 13.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.4	
6	電子・電機 19.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.3	官公庁・団体 12.0	商社(総合) 10.5	官公庁・団体 11.1	建設・住宅・不動産 15.6	
7	自動車・輸送用機器 16.2	情報・インターネットサービス 18.3	自動車・輸送用機器 10.0	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.9	商社(総合) 11.1	商社(総合) 13.8	
8	建設・住宅・不動産 15.3	エネルギー 16.1	機械・プラントエンジニアリング 10.0	通信関連 7.9	エネルギー 10.0	運輸・倉庫 13.8	
					情報・インターネットサービス 10.0		

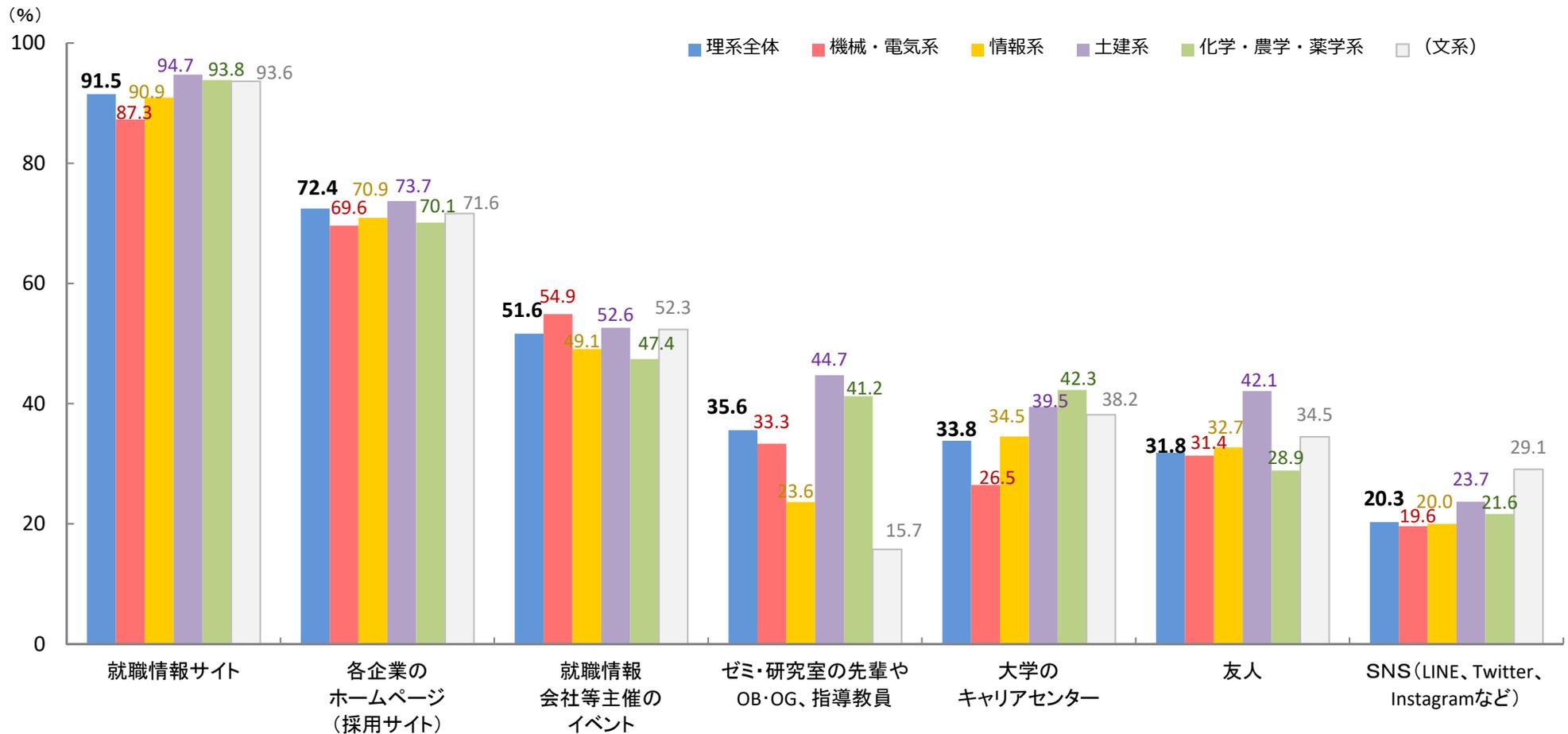
## 6. 第1志望業界になったきっかけ

- 「インターンシップ等のプログラムに参加して興味を持った」が大半の属性で最多。
- 情報系と土建系は「専門的な勉強をしたこと」や「大学入学前から」が他の専攻分野より高い。
- 機械・電気系は「業界研究の結果」「合説・WEB合説で話を聞いて」など、就職活動を進める中で決まる割合が比較的高い。



## 7. 就職活動に関する情報の入手先(1月時点)

- 「就職情報サイト」が最も多く、文理や専攻分野によらず広く利用されている。
- 文理差が大きいのは「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教員」。土建系と化学・農学・薬学系で4割を超える(44.7%、41.2%)。
- 土建系と化学・農学・薬学系は「大学のキャリアセンター」も比較的高い。
- 機械・電気系は「キャリアセンター」が他より低く(26.5%)、「就職情報会社等主催のイベント」が比較的高い(54.9%)。



※オンライン形式も含む

## 8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点(1月時点)

- いずれの属性も「将来性がある」が最多。学生共通の重要な視点となっている。2位も全属性共通で、「給与・待遇が良い」。
- 理系は文系に比べ「大企業である」ことを重視する傾向が強い(理系3位、文系9位)。
- 情報系学生は「福利厚生が充実している」「職場の雰囲気が良い」のポイントが高く、他の専攻分野を大きく上回る(34.5%)。

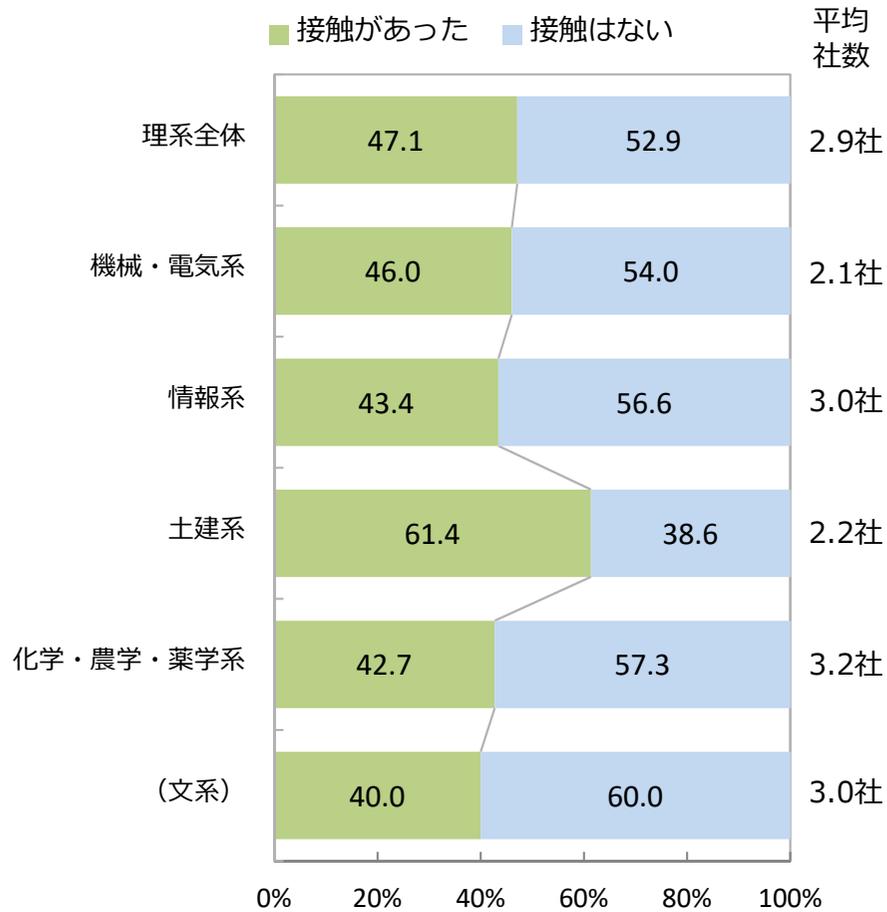
※5つまで選択 (%)

	理系					文系	
	将来性がある	給与・待遇が良い	大企業である	社会貢献度が高い	福利厚生が充実している	将来性がある	給与・待遇が良い
1	50.6	42.1	28.3	27.6	26.6	47.4	44.0
2	54.9	40.2	32.4	28.4	26.5	44.0	44.0
3	41.8	41.8	38.2	34.5	34.5	30.1	30.1
4	52.6	52.6	42.1	39.5	39.5	29.8	29.8
5	49.5	44.3	26.8	26.8	25.8	28.4	28.4
6	25.8	25.8	21.6	21.6	21.6	28.2	28.2
7	24.6	24.6	21.6	21.6	21.6	24.8	24.8
8	24.3	20.6	20.6	21.8	21.1	23.8	23.8
9	22.1	20.6	20.0	21.1	21.1	19.0	19.0
10	19.8	20.6	18.2	18.4	20.6	18.9	18.9

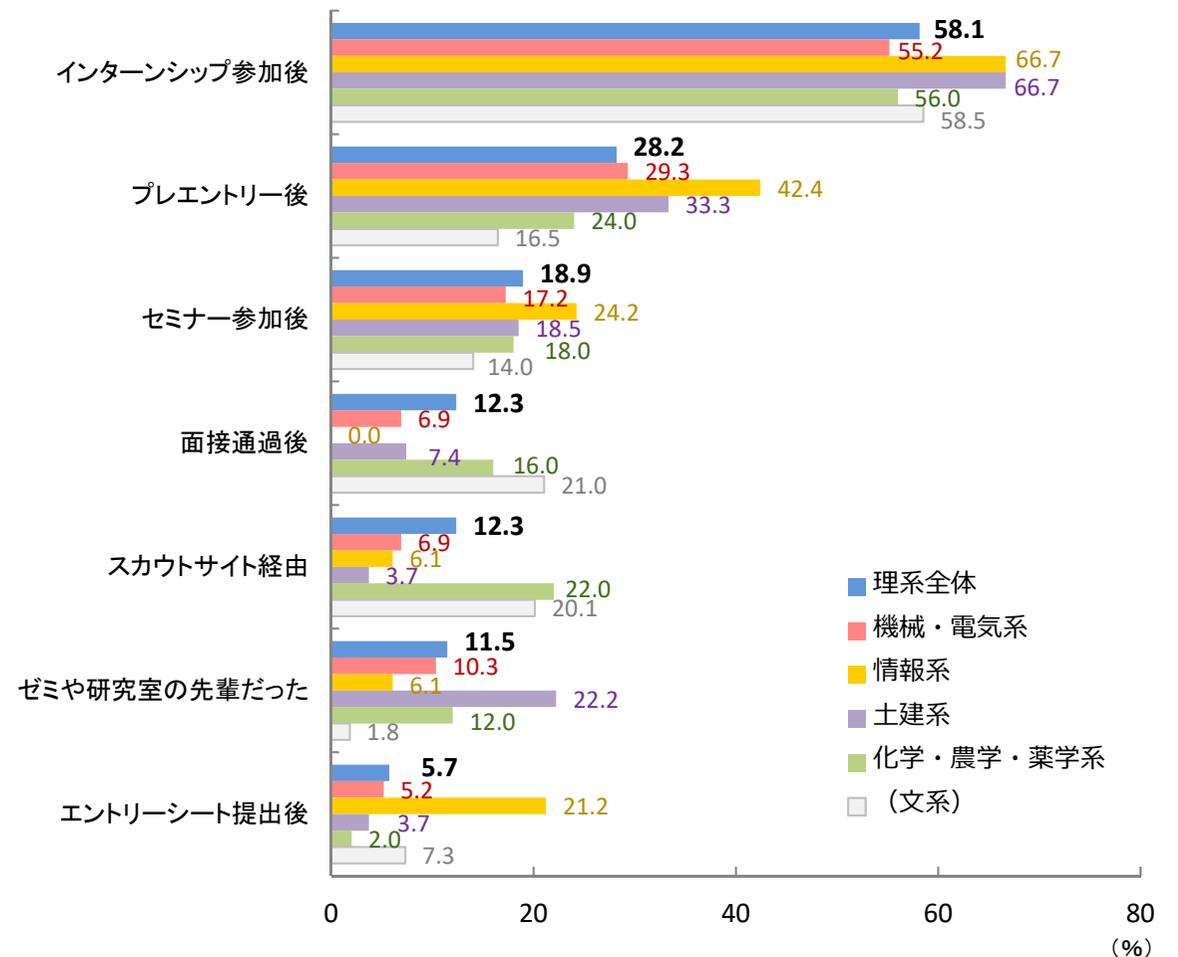
## 9. リクルーターとの接触(3月時点)

- 3月までにリクルーターから接触があった理系学生は47.1%。土建系で多く、6割を超える(61.4%)。
- 接触社数が多いのは化学・農学・薬学系で、平均3.2社。少ないのは機械・電気系で2.1社。
- いずれの属性も、接触のきっかけは「インターンシップ参加」が最多。情報系は「プレエントリー」「セミナー参加」なども多い。

リクルーター接触の有無

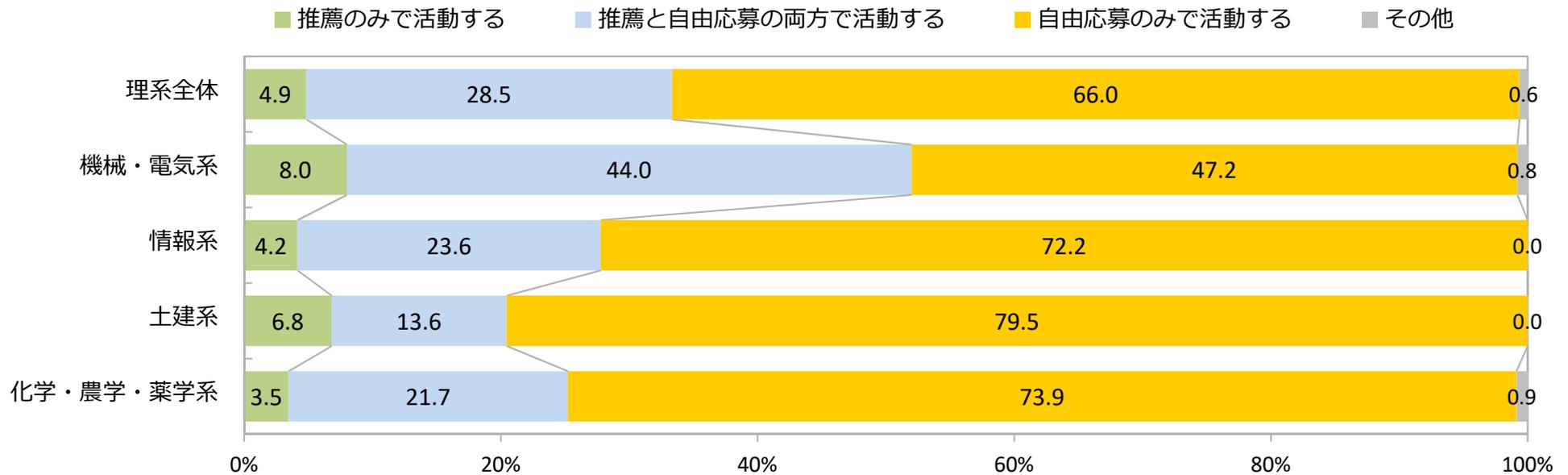


リクルーターと接触したきっかけ(ルート)



## 10. 推薦の利用予定(3月時点)

- 推薦の利用予定者は理系全体の3割強(自由応募との併願含め33.4%)。機械・電気系学生で多く、過半数に上る(同52.0%)。
- 自由応募で活動する理由は、「希望の企業からの推薦枠がない」が最多(27.1%)。土建系と情報系は3割超。
- 化学・農学・薬学系は「文系就職をしたい」が比較的多い(10.2%)。

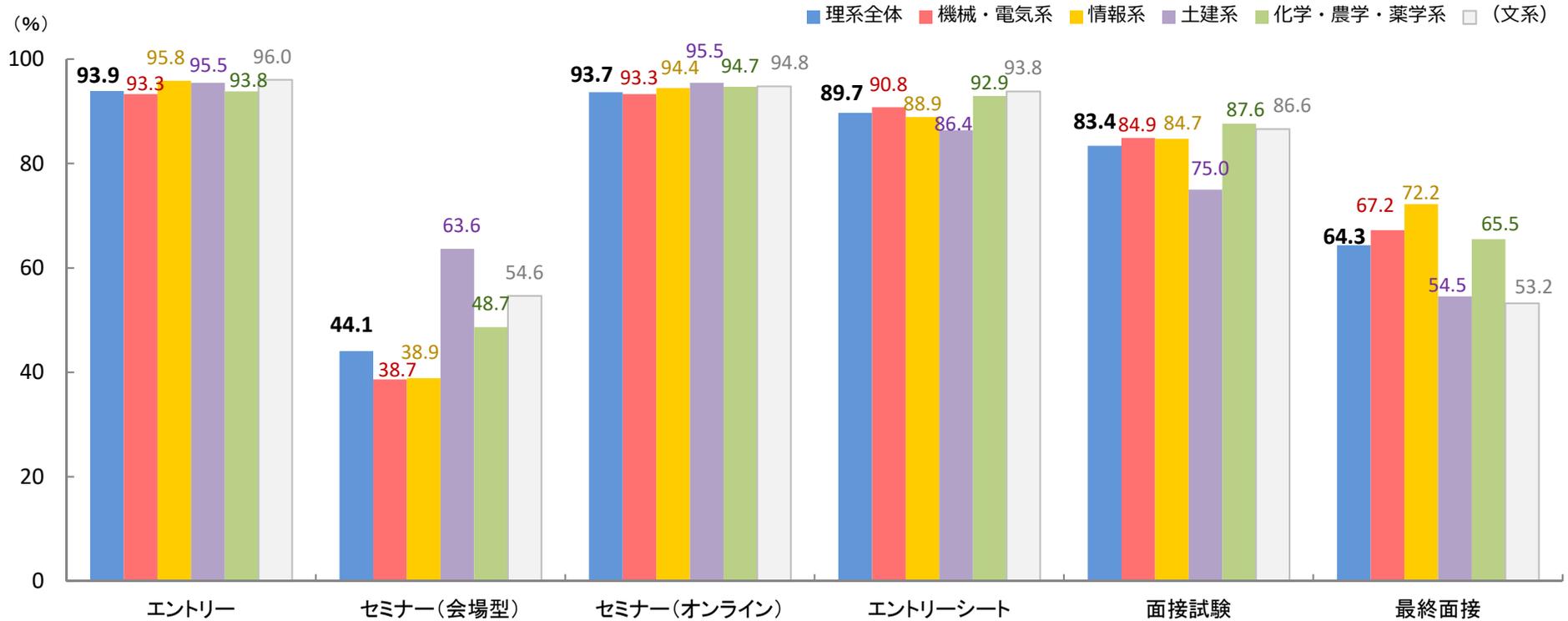


### 【自由応募で活動をする理由】

	理系 (%)				
	機械・電気系	情報系	土建系	化学・農学・薬学系	
希望の企業からの推薦枠がないから	27.1	19.3	35.3	36.6	25.9
自分で就職先を見つけたいから	18.6	10.5	22.1	17.1	22.2
推薦で内定が出たら辞退できないから	16.7	20.2	16.2	12.2	13.0
推薦で受けても内定が取れるとは限らないから	13.6	21.9	11.8	9.8	8.3
できるだけ多くの企業を受けたいから	12.2	12.3	13.2	7.3	13.9
文系就職をしたいから	4.3	1.8	0.0	2.4	10.2
推薦枠はあるが学内の競争率が高いから	3.6	8.8	0.0	4.9	3.7
自由応募のほうが先に選考が始まるから	2.9	4.4	0.0	7.3	2.8
その他	0.9	0.9	1.5	2.4	0.0

# 11. 就職活動量①(経験率／4月時点)

- 4月1日時点での経験率を見ると、エントリーから面接試験まで、理系学生は文系学生よりもやや低い水準。
- 但し、最終面接に限っては文系を上回り、理系学生の進行の早さが表れている。前年調査(55.7%)より8.6ポイント増加した(64.3%)。
- 理系の中でも特に情報系は最終面接の経験率が高く(72.2%)、進行が早い。

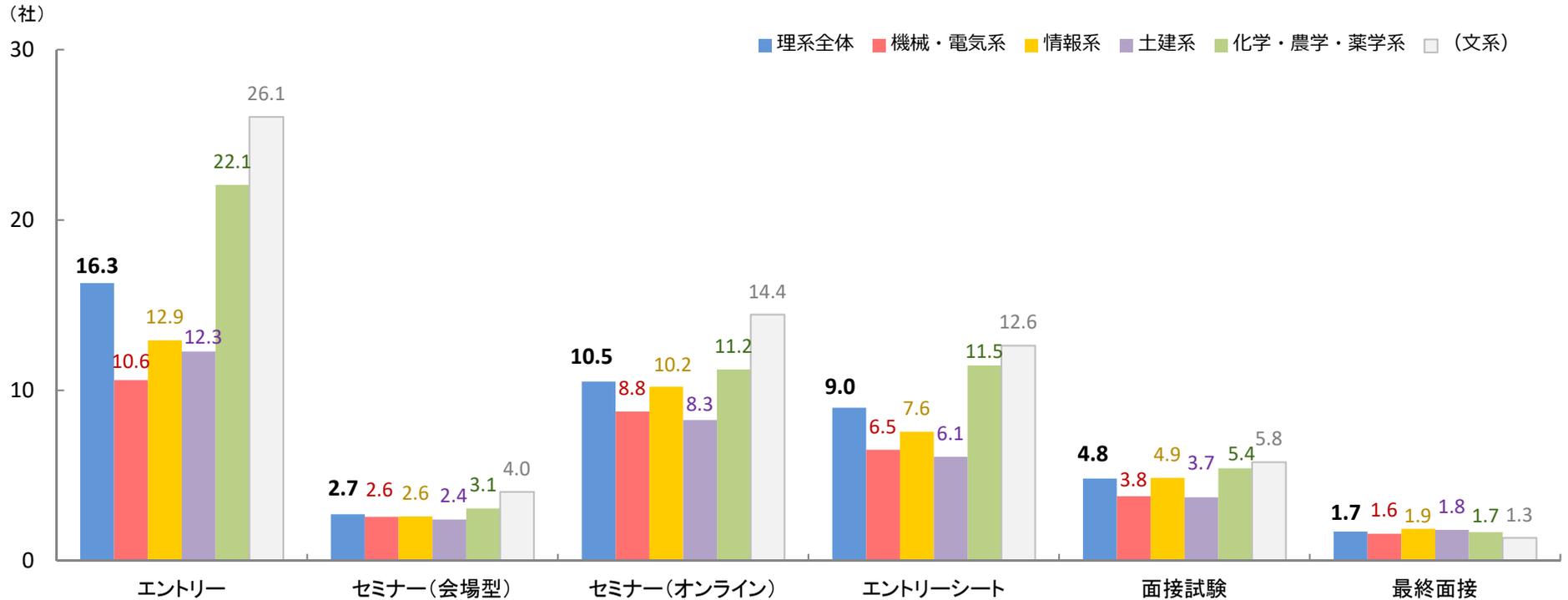


【前年比較】

	22年卒		23年卒		22年卒		23年卒		22年卒		23年卒		22年卒		23年卒	
	経験率	前年差	経験率	前年差	経験率	前年差	経験率	前年差	経験率	前年差	経験率	前年差	経験率	前年差	経験率	前年差
理系全体	93.7	0.2	93.9	0.2	31.1	1.4	44.1	1.0	87.1	0.8	93.7	0.6	82.1	1.1	83.4	1.3
機械・電気系	91.3	0.0	93.3	2.0	31.3	0.0	38.7	0.0	87.0	0.0	93.3	6.3	79.1	1.1	84.9	5.8
情報系	95.5	0.0	95.8	0.3	14.9	0.0	38.9	0.0	86.6	0.0	94.4	7.8	94.0	7.4	88.9	4.9
土建系	93.2	0.0	95.5	2.3	45.8	0.0	63.6	1.8	83.1	0.0	95.5	12.4	88.1	5.5	86.4	1.7
化学・農学・薬学系	97.4	0.0	93.8	-3.6	28.7	0.0	48.7	2.0	91.4	0.0	94.7	3.3	95.7	4.3	92.9	-2.8
(文系)	96.7	0.0	96.0	-0.7	46.4	0.0	54.6	0.8	91.6	0.0	94.8	3.2	92.6	1.0	93.8	1.2

## 12. 就職活動量②(平均社数/4月時点)

- 4月1日時点の理系学生のエントリー社数は平均16.3社。文系(26.1社)より約10社少なく、企業を絞って活動する傾向が強い。
- 前年同期調査に比べ、エントリー社数、エントリーシート提出社数ともに、ほとんどの専攻分野で減少。
- 理系の中でも、機械・電気系や土建系は社数が少なく、化学・農学・薬学系は比較的多いのが特徴的。



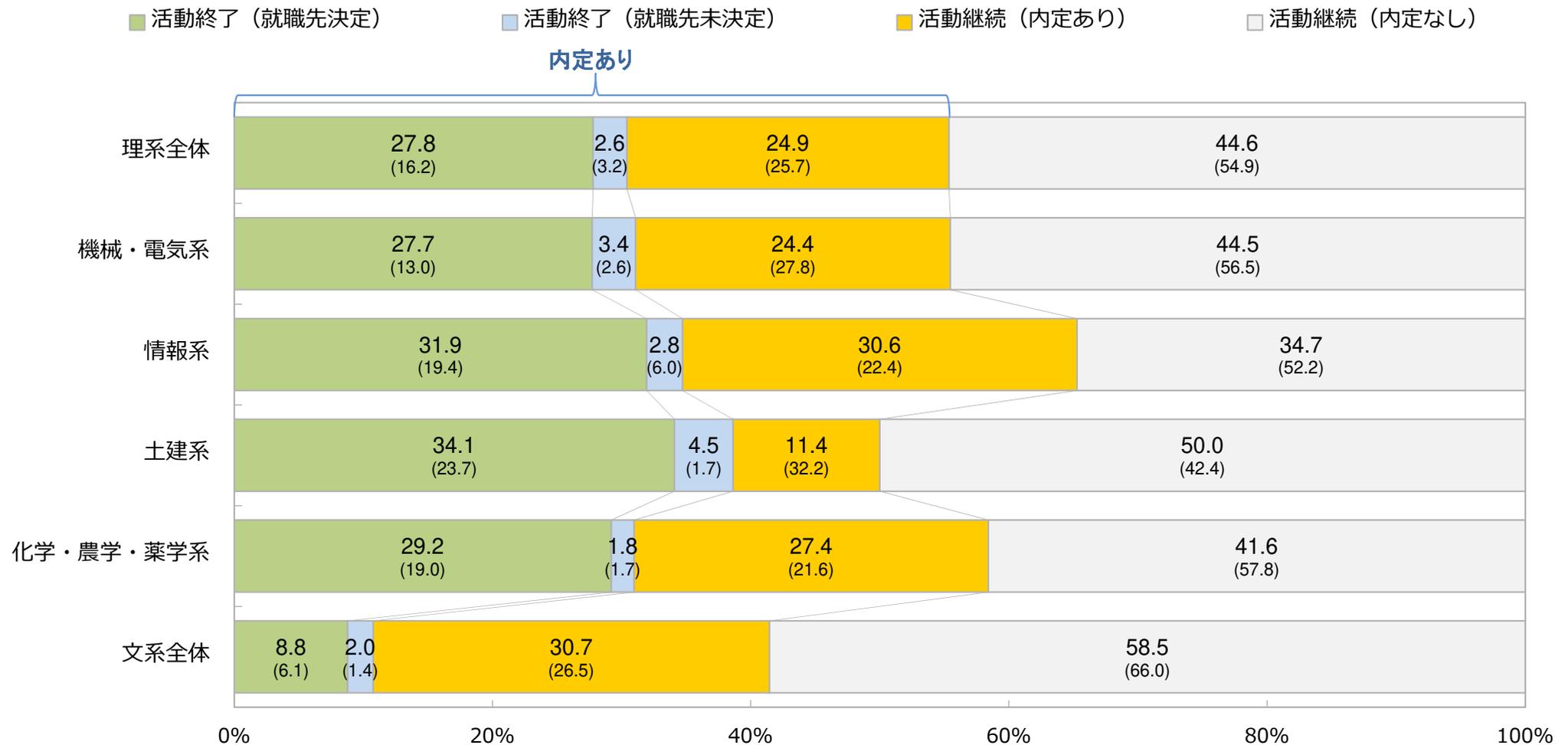
### 【前年比較】

	22年卒		23年卒		22年卒		23年卒		22年卒		23年卒		22年卒		23年卒	
理系全体	18.0	16.3	2.5	2.7	9.1	10.5	9.6	9.0	4.3	4.8	1.3	1.7				
機械・電気系	15.5	10.6	2.2	2.6	8.7	8.8	7.1	6.5	4.1	3.8	1.4	1.6				
情報系	15.4	12.9	2.2	2.6	8.7	10.2	8.7	7.6	4.9	4.9	1.6	1.9				
土建系	20.1	12.3	2.6	2.4	6.7	8.3	7.8	6.1	3.7	3.7	1.4	1.8				
化学・農学・薬学系	20.5	22.1	2.1	3.1	9.4	11.2	12.1	11.5	4.5	5.4	1.2	1.7				
(文系)	28.2	26.1	3.5	4.0	12.8	14.4	13.6	12.6	5.4	5.8	1.1	1.3				

※社数はそれぞれ受験者を分母に、平均社数を算出

## 13. 就職活動状況の分布(4月時点)

- 4月1日時点で、理系学生の55.3%が内定を獲得。文系学生(41.5%)より10ポイント以上高く、進捗の早さが見て取れる。
- 理系は活動終了者の割合も高く、就職先未決定者(=複数内定保留)も合わせると3割に達する(30.4%)。
- 最終面接の経験率が高かった情報系は内定率も高く、6割を超える(65.3%)。就職先決定者も多い(31.9%)。



※( )内は前年同期調査の数値

## 14. 「面白そう」と感じる仕事

- 理系全体で最も多いのは「結果が目に見え、カタチになる仕事」(58.1%)。
- 機械・電気系学生は、「世界を相手に働ける仕事」や「特許や特殊な技術力を生み出す仕事」などが他の専攻学生より高い。
- 情報系学生は「チームワークで成し遂げる仕事」が高く、土建系学生は「地域・地元貢献できる仕事」が高い。

